



たなか ちさと
田中 千聡 (生命環境学群 生物学類 3年)
やまもと たかゆき
山本 鷹之 (生命環境学群 生物学類 3年)

つくバグとは？

私たち「つくバグ」は2010年度に筑波大学の社会貢献プロジェクトに採択され、活動をスタートした団体です。現在は生物学類や生物資源学類の2年生から大学院博士課程までのメンバーが携わっています。小中高生の子どもたちを対象として、身近な環境を敏感に反映する「むし(虫)」を題材とした環境教育を主軸に活動を行っています。また、今年度は例年行っている雙峰祭での展示企画だけでなく、虫をより身近に感じてもらうために、大学生以上の方を対象とした図書館展示や昆虫食の会も企画しました。

つくバグは推進室教員の方に助言をいただきながらさまざまな分野の方々に幅広い広報を行うことのできるT-ACTとして活動させていただくことで、「虫」に普段親しみのない方でも気軽に参加できるようにしております。

つくバグの活動

つくバグでは、小中高生向けに季節に応じた題材を用いて自然観察教室やワークショップを開催しています。これまでに昆虫採集や標本作成、スケッチ体験教室、土壌生物観察会などさまざまな内容の企画を開催してきました。企画を開催する際には必要に応じて実施内容や参加者応募、安全対策などの事項についてミーティングを重ねながら決めていきます。特に参加した子どもたちが「楽しかった」という受け身の感想だけを抱かないよう、常に発見や学びのある内容を実施できるように心がけています。例えば、標本作成教室なら虫の特徴や採集場所に関して考える時間だけでなく、虫(=生き物)を固定して標本にする意味やラベルの重要性に関して考える時間も設けるといった具合です。参加していただいた小中高生と実際に野外へ出て、採集する際のポイントや工夫を指導することで、自ら新しいものを発見する力が身に付いたと感じています。

大学生以上を対象とした今年度の企画には、筑波

大学中央図書館にて行わせていただいた展示活動や今年10月中に開催予定の昆虫食企画「むしくうべ2」があります。中央図書館での展示では、これまでに開催した子ども向け企画や大学構内や近隣に生息する虫をポスターや樹脂封入標本を用いて紹介しました。「むし食うべ2」は2014年度に行った「むし食うべ」で作成した昆虫食に関するガイドラインをベースに行う企画です。「チャレンジ精神」などのコンテンツとして取り上げられがちな昆虫食を栄養価や文化などの面から捉え、昆虫を食べながら将来性や安全性について議論します。

活動の多くで、「身近にこんなにたくさんの虫がいるとは思わなかった」といった感想が述べられ、多くの方に虫を身近に感じていただくことができたと感じております。活動を通して、自然体験を指導する経験を得たり、メンバーのスキルアップも目指したりしております。

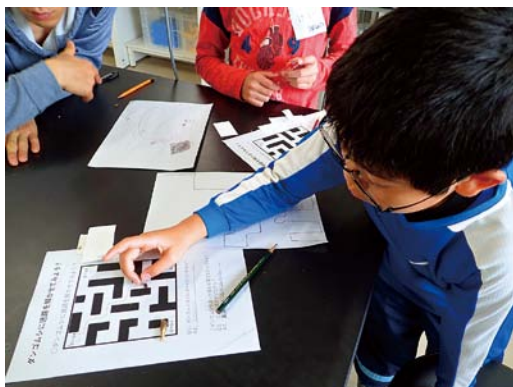
覗いてみよう、むしの世界

筑波大学は緑豊かなキャンパスをもち、近くには里山環境が残存しています。虫を含む生態系のドラマは、大学構内を歩く私たちの足下や側の植物、池の中などで繰り広げられているのです。しかし普段何気なく生活していると、ついその存在を見過ぎてしまいがちです。

つくバグでは毎年、虫を題材とした展示を雙峰祭にて行っております。今年度は「覗いてみよう、むしの世界」をコンセプトとした虫ミュージアムを開催いたします。虫が得意な方や苦手な方、大人や子どもなどさまざまな人々が楽しめる展示を予定しております。この機会に「むし」を通して身近な自然に対して興味をもっていただけると幸いです。

つくバグ

Twitter : @Tsukubug



ダンゴムシとシロアリの迷路実験を行う参加者 (2016年4月)



中央図書館で行った展示の様子 (2016年7～8月)